

世界無形遺産  
能 楽

観世流

宝生流

# 華 の 競 演



ふたり  
静  
立出之二声

撮影・前島吉裕



あや  
の  
つづみ  
鼓

撮影・亀田邦平

Futari Shizuka  
Tetsunojo Kanze

Aya no Tsuzumi  
Yoshio Sano

◎シテ—観世鏡之丞(鏡仙会)



◎シテ—佐野由於(金沢能楽会)



平成30年  
2月23日(金)

17:00開演(16:00開場)

会場・お問合せ

石川県立能楽堂

TEL&FAX.076-264-2598  
〒920-0935 金沢市石引4丁目18-3

料金

前売り 4,000円(当日500円高)【全席自由】

※高校生以下無料。  
※満席の場合当日券を発売しない場合がございます。  
チケットはお早めにお買い求めください。

チケットのお求め

- ◎ 石川県立能楽堂
- ◎ 石川県立音楽堂チケットボックス(TEL:076-232-8632)
- ◎ 香林坊大和プレイガイド(TEL:076-220-1332)
- ◎ e+(イープラス) <http://eplus.jp> (パソコン・携帯)



主催

いしかわの伝統文化活性化実行委員会  
石川県文化振興課内  
〒920-0858 金沢市鞍月1丁目1  
TEL:076-225-1372 FAX:076-225-1496

H29文化遺産総合活用推進事業(地域文化遺産活性化事業)

※駐車場はありません。公共交通機関又は石引駐車場をご利用下さい。

TOKYO 2020  
文化  
オリンピック



観世流

能 二人静

たちいでの一せい 立出之一声

対談

流派の違い

谷本 健吾(観世流)

渡邊 茂人(宝生流)

司会進行

金子 美奈

(北陸朝日放送アナウンサー)

実演

仕舞

長山 桂三(観世流)

仕舞

藪 克徳(宝生流)

宝生流

シテ(静御前) 観世 鍊之丞



観世流シテ方 昭和31年生まれ。故八世 観世鍊之丞静雪(人間国宝)の長男。伯父故観世寿夫、及び父に師事する。昭和35年、4歳で初舞台。平成14年、九世鍊之丞を襲名。力強さと繊細さを兼ね備えた謡と演技には定評がある。ニューヨーク、ポージランド、韓国等、海外公演にも多く参加するほか、新作能でのシテや演出、映画や他ジャンルとのコラボレーションにも参加するなど、古典を越えた世界でも幅広く活躍。平成20年度日本芸術院賞受賞。平成23年紫綬褒章受章。重要無形文化財総合指定保持者。公益社団法人能楽協会理事長。

能 綾鼓

前シテ(庭掃老人) 後シテ(老人の怨霊) 佐野 由於



宝生流シテ方 昭和29年生まれ。佐野家分家3代目当主。佐野正治嗣子。宝生宗家、田中幾之助、松本恵雄、三川泉に師事する。昭和33年「鞍馬天狗花見」にて初舞台。東京芸術大学卒業。重要無形文化財総合指定保持者。公益社団法人宝生会理事。公益社団法人能楽協会北陸支部長。公益社団法人金沢能楽会副理事長。

休憩15分

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| ツレ(菜摘女)..... 観世 淳夫   | ツレ(女御)..... 高橋 憲正  |
| ワキ(勝手宮神主)..... 大日方 寛 | ワキ(臣下)..... 殿田 謙吉  |
| 笛..... 松田 弘之         | 問狂言(従者)..... 能村 祐丞 |
| 小鼓..... 鶴澤洋太郎        | 笛..... 江野 泉        |
| 大鼓..... 柿原 弘和        | 小鼓..... 住駒 幸英      |
| 後見..... 清水 寛二        | 大鼓..... 飯嶋六之佐      |
| 地謡..... 西村 高夫        | 大鼓..... 麦谷 暁夫      |
| 馬野 正基                | 後見..... 島村 明宏      |
| 浅見 慈一                | 地謡..... 佐野 玄宜      |
| 北浪 貴裕                | 大坪喜美雄              |
| 長山 桂三                | 渡邊荷之助              |
| 谷本 健吾                | 金森 秀祥              |
| 安藤 貴康                | 高橋 右任              |
| 青木 健一                | 渡邊 茂人              |
| 小早川泰輝                | 藪 克徳               |
|                      | 佐野 弘宜              |
|                      | 松本 博               |

「二人静 立出之一声」 あらすじ

正月七日、早春の吉野山。勝手明神に若菜を供える神事のため、神主は女に菜摘を命じる。川に出かけた女の前に不思議な女人が現れる。罪深い自分を一日経て申して欲しいと訴え、もし不審に思う人あれば、あなたに憑りついて名乗ろうと言いつて消える。

帰りに着いた菜摘女が神主に一部始終を語り、「真とも思えないことだ」と口にした瞬間、急に口調が変わり「なに、真しからずとや」と何者かが憑依した状態。神主の尋問に静御前の霊であることを仄めかし、促されるまま菜摘女の身を借りて静が着用した着物を着て舞い、重ねて弔いを願う。

通常、序之舞は憑依された菜摘女(ツレ)と静御前の霊(シテ)の相舞となるが、今回は五代・観世元章が考案した小書(特殊演出)をもとに、菜摘女の舞姿に静御前の姿が重なってゆくように途中で相舞となる演出での上演。

「綾鼓」あらすじ

木の丸の皇居に仕える卑しい庭掃きの老人は、あるとき垣間見た美しい女御に老いらくの恋心を抱く。それを知った女御は、布を張った鼓を池辺の桂の木に掛けさせ、この鼓を打った音が皇居まで届いたら姿を見せようと約束をする。老人は勇んで何度も鼓を打つが、打てども打てども当然の如く鳴らない綾鼓。やがて老人は絶望し、入水して果てる。

執心を恐れた女御が池辺に向くと、わかにかに不明の狂気に駆られる。そこに髪振り乱し、形相物凄く悪鬼と変じた老人の霊が出現し、女御を咎で打ち苛み、死しても消えぬ遺恨を訴え水中に消える。

観世流では本曲をもとに、世阿弥が「綾鼓」を「重荷」にして改訂した「恋重荷」が現行曲。

会場のご案内

●兼六園シャトルバス成巽閣前バス停より徒歩1分 ●出羽町バス停より徒歩3分

駐車場が使用できません!

能楽堂敷地内偕行社等の解体工事に伴い、能楽堂の駐車場が利用できません。公共交通機関をご利用いただくか、近くの石引駐車場(徒歩約5分)をご利用ください。石引駐車場の駐車券を会場の受付でご提示いただくと、サービス券をお渡します。ご不便をおかけしますがご理解の程お願い申し上げます。

